

2022 年 3 月 10 日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

2021 年度 学術情報流通推進委員会 活動報告

第 1 期基本方針のもと、2021 年度は次の活動に取り組んだ。

(1) 国内ステークホルダーとの協調

- 学術情報流通推進委員会の開催
 - 2021 年度は学術情報流通推進委員会を 2 回開催した。
 - 第 1 回では学術情報流通推進委員会を解消するにあたり、SPARC Japan 活動の過去の業績の総括と未来へのビジョンを示すため、「SPARC Japan 活動の振り返りと今後の在り方(仮題)」について、各ステークホルダーの視点から意見交換をした。
 - 第 2 回では「SPARC Japan 活動の振り返りと今後の在り方(仮題)」について、審議を行った(予定)【詳細は資料 4-1～2 を参照のこと】。

(2) 国際協調に係る戦略の検討と提言

- arXiv.org の活動支援
 - arXiv.org は、物理学、数学、コンピュータサイエンス等のプレプリントサーバとして、同分野を中心とした研究成果のオープンアクセスとアーカイブを進めている。日本においては、arXiv.org の利用実績が多い研究機関がコンソーシアムを形成してこの取組みを支援しており、国立情報学研究所にて、コンソーシアムの年会費の取りまとめを行っている。
 - arXiv.org の利用頻度が高い国内機関に対して 2021 年の参加意向調査を行い、その結果に基づいて、16 機関の会費の取りまとめと arXiv.org 事務局への支払いを行った。
 - 日本の参加機関を代表して武田委員長が、2021 年 10 月 4～5 日にオンラインで行われた arXiv MAB Meeting に出席した。
 - 【会議の議事・資料については、参考資料 3-1 を参照のこと】
 - 2022 年の Membership Plan の刷新に伴い、本活動の内容を日本の機関に広く周知するため、SPARC Japan Web サイトに arXiv.org 専用の Web ページ<<https://www.nii.ac.jp/sparc/about/international/arXiv/>>を新設した。
 - 現在、arXiv.org への投稿数が上位の未参加機関に新規参加の交渉を実施している。
 - 今後は、2022 年の参加意向について、調査を行う。
- CLOCKSS の活動支援
 - CLOCKSS は、世界の主要な出版社および図書館による非営利の共同事業で、電子的な学術コンテンツへのアクセス保障と恒久的保存を目的に、ダークアー

カイク (アクセスが限定されたアーカイブ) を構築している。当研究所は、コンテンツを保持する世界 12 のノード機関の一つとして参画する他、大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) と連携して、CLOCKSS との協議や国内大学図書館の CLOCKSS への参加取りまとめを行っている。

- JUSTICE 会員館を中心に 2021 年の参加意向調査を行い、その結果に基づいて、101 機関の会費の取りまとめと CLOCKSS 事務局への支払いを行った。
- 日本の参加機関を代表して武田委員長が、2021 年 6 月 23 日、9 月 28 日にオンラインで行われた CLOCKSS Board of Directors 会議に出席した。
- 【会議の議事については、参考資料 3-2 を参照のこと】
- 今後は、2022 年の参加意向について、既参加機関を中心に調査を行う。

● SCOAP³ の活動支援

- SCOAP³ は、欧州原子核研究機構 (CERN) が主導する、高エネルギー物理学 (以下、HEP) 分野の査読付き学術雑誌論文のオープンアクセスを実現する国際連携プロジェクトである。日本においては、SCOAP³ 対象誌を購読している研究機関を中心に、従来図書館が出版社に支払ってきた購読料を、論文出版加工料 (APC) に振り替えることで、HEP 分野の主要な学術雑誌のオープンアクセスを支援している。当研究所は、この支援の取りまとめを行っている。
- フェーズ 3 (2020-2022 年) を支援する国内機関を中心に 2021 年の参加意向調査を行い、その結果に基づいて、82 機関の会費の取りまとめと SCOAP³ 事務局への支払いを行った。
- 2019 年度の「SCOAP³ 推進のための検討会議」を受けて、2020 年以降、論文投稿者の割合が多い高エネルギー加速器研究機構、名古屋大学、京都大学の高エネルギー物理学分野の研究者コミュニティから追加拠出を頂いている。SCOAP³ 事務局では、日本の参加機関の代表である池松委員・NII の山地教授と連携し、次年度以降の追加拠出についても、未拠出機関も含め論文投稿数・HEP 研究者数の上位機関への交渉を続けている。
- 2019 年の Governing Council 会議 (以下、GC) において 1 年限りのプロジェクトとして承認された書籍を対象とする SCOAP³ for Books パイロットプロジェクトについて、2021 年 3 月に SCOAP³ 参加機関宛に関心調査を実施し、その結果に基づいて、18 機関の会費の取りまとめと SCOAP³ 事務局への支払いを行った。
- 日本の参加機関を代表して池松委員と NII の山地教授が、2021 年 11 月 3~4 日にオンラインで行われた GC に出席した。
- 【会議の議事については、参考資料 3-3 を参照のこと】
- 現在、2022 年の参加意向について、既参加機関を中心に調査を行っている。

(3) アドボカシー活動の実施

- SPARC Japan セミナー 2021 の開催

- 企画 WG を組織して（主査：林委員），SPARC Japan セミナー2021 を計 1 回実施（2022 年 2 月 22 日）した。また，講演者の許諾条件に基づいて，動画や講演資料等を SPARC Japan Web サイトで公開予定。

【詳細は，資料 3 別紙を参照のこと】

● 広報物の作成及び公開

• SPARC Japan NewsLetter

44 号（日本語版・英語版）を発行した。NewsLetter には，SPARC Japan セミナーの開催報告の他に，arXiv.org 等国際的なイニシアティブの活動概要も掲載している。

（4） 学術情報流通の動向に係る調査の提言

- 2020 年度に引き続き，JUSTICE が主導する日本の論文公表実態調査のフォローアップに協力している。
- 2021 年 3 月に，日本の研究機関に所属する研究者の公表論文数，OA 率および APC 支払推定額の調査した「論文公表実態調査報告 2020 年度（公開版）」が JUSTICE Web サイトで公開された。

（5） その他

● SPARC US (New Venture Fund) との MoU 更新

- 2019 年 3 月に締結した MoU は 3 年間を期限としているので，2022 年 2 月に更新した。

● 学術情報流通推進委員会終了に関する広報

- SPARC Japan Web サイトに掲載する。
- 2022 年度の NII の事業に関する各種報告の場で，広報する。
- 広報内容は以下のとおり。
 - ・ 学術情報流通推進委員会の終了
 - ・ SPARC Japan セミナーの開催及び arXiv.org・CLOCKSS・SCOAP³ の連携は従来通り
 - ・ 「SPARC Japan 活動の振り返りと今後の在り方（仮題）」の公開

以上

SPARC Japanセミナー2021 実施状況

2022年3月10日

国立情報学研究所 学術コンテンツ課

回	開催日時 (場所)	テーマ	企画WG (所属) ◎主査、五十音順	講師 (所属) 登壇順	参加状況											定員	動画利用状況 ※2/28時点	
					パート ナー誌	運営委 員	学協会	大学	研究者	大学図 書館	国立機 関	出版／ 印刷会 社	その他	NII	合計		動画中継 利用件数	アーカイブ動 画利用件数
1	2022年2月22日(火) 13:00-16:55 (オンライン開催)	「研究データポリシーが目指すもの とは」	池内 有為(文教大学) ◎ 上野 友稔(電気通信大学) 林 和弘(科学技術・学術政策研究所) ◎ 安原 通代(国立情報学研究所) 八塚 茂(バイオサイエンスデータベースセンター) ◎ 矢吹 命大(横浜国立大学) 山形 知実(北海道大学)	【講演者・モデレーター・パネリスト】 三宅 隆悟 (文部科学省学術基盤整備室) 田野 俊一 (電気通信大学長) 大波 純一 (国立情報学研究所 / オープンサイエンス基盤研究セン ター) 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所) 池内 有為(文教大学) 能勢 正仁 (名古屋大学) 松原 茂樹 (名古屋大学 情報戦略室) 白井 知子 (国立環境研究所) 上野 友稔 (電気通信大学) 安原 通代 (国立情報学研究所) 八塚 茂 (バイオサイエンスデータベースセンター) 矢吹 命大 (横浜国立大学) 山形 知実 (北海道大学)	0	1	3	107	11	145	60	27	42	11	407	なし	297	動画未公開

※注
・発表資料・ビデオ映像・記録ドキュメント等はウェブサイト(<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/>)で公開している。
・2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインのみの開催とした。
・参加者の属性は、参加申込時の申告に基づいている。例えば”NII”, "大学"及び"国立機関"に研究者が含まれる。

○ 2021 年度のセミナー参加状況

2021 年度は昨年度に引き続きオンライン開催であったため、使用したツール(Webex Events)の都合上、「参加者」の属性データは取得できず、「申込者」の属性データのみ取得可能だった。また、Webex Events 以外に、サブツール(Youtube LIVE)でのライブ配信も実施したが、これらは申込者以外も視聴可能だったため、参考値。

● 参加者数

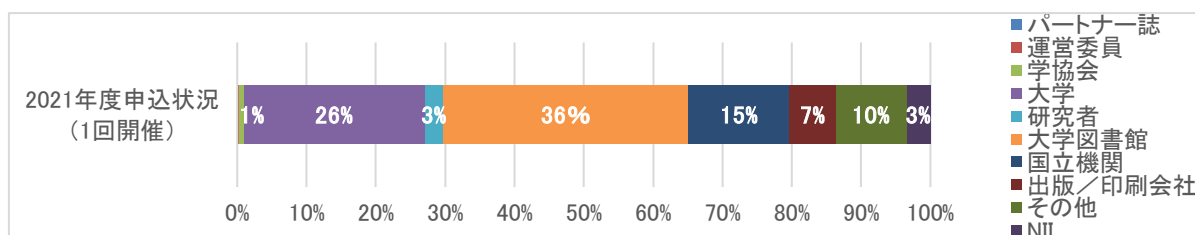
	Webex Events	ライブ配信(※1)	合計
第 1 回	297	104	401

※1;値はユニーク視聴者数。

● 申込者数

第 1 回:407 名

● 申込者層の割合



(参考)2020 年度のセミナー参加状況

● 参加者数

	Webex Events	ライブ配信(※1)	合計
第 1 回	247	308(※2)	555
第 2 回	251	67	318
第 3 回	282	65	347

※1;値はユニーク視聴者数。

※2;第 1 回のみ LINE LIVE 使用。前後半の二部制配信だったため、その累計視聴者数。

● 申込者数

第 1 回:300 名 第 2 回:355 名 第 3 回:386 名 平均:347 名

● 申込者層の割合

